

国際交流事業

JCBL は日本のブリッジプレイヤーを国際的に代表する唯一の国内組織で、世界ブリッジ連合及びアジアパシフィックブリッジ連合に加盟し、ブリッジの国際的活動に参加しています。

1. 世界ブリッジ連合

(WBF: World Bridge Federation)

WBF は 1958 年 8 月、ノルウェイのオスロで USA、ヨーロッパ、南アメリカのブリッジ連盟が協議し、世界各国のブリッジ組織をつなぐ中心機関となり、知的スポーツとしてのコントラクトブリッジを普及すること、毎年世界選手権試合を開催し、必要な規則と規定を整備すること、及び人種、文化、宗教が異なる民族間の相互理解を深めることを目的として設立されました。

(1) 本部及び事務局

Maison du Sport International
54 av. de Rhodanie, 1007 Lausanne
Switzerland
Tel: (41) 21-544-7218

(2) 事業

WBF はコントラクトブリッジの普及・発展のための活動として、以下の事業を行っています。

- 1) コントラクトブリッジ・ゲームの管理、育成、奨励
- 2) コントラクトブリッジ国際規則の運用
- 3) 各種の国際試合(ワールドブリッジゲームズ、ワールドブリッジシリーズ、世界ブリッジ選手権試合)の管理と奨励
- 4) その他理事会が承認した不定期の競技会の管理

(3) 会員

WBF は各国ブリッジ組織を会員とし、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ、中近東アジア、中央アメリカカリブ海、アジアパシフィック、オセアニア、アフリカの 8 ゾーンがあり、日本はゾーン 6(パシフィ

ックアジアゾーン)に属しています。WBF は各ゾーン代表 16 名(ヨーロッパ、北アメリカは 5 名、他ゾーン各 1 名)と会長で構成される評議委員会で運営されています。

加盟国(地域)は 2025 年現在 97 です。

(WBF official website より)

(4) 役員(2025 年 3 月現在)

会長 Jan Kamras(スウェーデン)
2025/3/17 ご逝去
副会長 Ben Thompson(オーストラリア)
" Eric Laurant(オランダ)
財務 Mark de Pauw(ベルギー)
法務 David Harris(イギリス)
名誉会長 José Damiani(フランス)
Gianarrigo Rona(イタリア)
名誉幹事 Adam Wildavsky(アメリカ)

2. アジアパシフィックブリッジ連合

(APBF: Asia Pacific Bridge Federation)

1957 年、日本、フィリピン、台湾、香港の 4 ヶ国の発案で極東ブリッジ連合(FEBF)を結成し、1958 年 WBF 発足と同時に加盟しました。1995 年にパシフィックアジアブリッジ連合(PABF)と名称変更、2010 年まで WBF のゾーン 6(Pacific Asia)とゾーン 7(South Pacific)の国/地域で構成されていました。2010 年にゾーン 4(Asia and Middle East)の加盟国が加わって、現在の名称 APBF に変更になりました。

(1) 事務局

東京都新宿区四谷 1 丁目 13 番地
虎ノ門実業会館四谷ビル
(公社)日本コントラクトブリッジ連盟内

(2) 事業

アジアパシフィック・ブリッジ選手権試合、その他ゾーン 6 内の国際試合の管理と奨励を行っています。

(3) 加盟国

(WBF ゾーン 6) 日本、中国、チャイナ香港、チャイナマカオ、チャイニーズタイペイ、インドネシア、韓国、マレーシ

ア、フィリピン、シンガポール、タイ
(WBF ゾーン 7) オーストラリア、ニュージーランド

(WBF ゾーン 4) バングラデッシュ、インド、ヨルダン、クウェート、パキスタン、パレスチナ、サウジアラビア、スリランカ、UAE

(4) 役員(2025 年 3 月現在)

会 長 Esther Sophonpanich(タイ)

副 会 長 Wang Yannan(中国)

〃 Bahjat Al Majali(ヨルダン)

事務総長 吉田 正(日本)

〃 M. Azwerul Haque(パキスタン)

財 務 Anthony Ching(香港)

WBF 代表

Patrick Choy(シンガポール)

Wang Yannan(中国)

3. 国際試合

(1) ワールドブリッジゲームズ

(旧：世界チームオリンピック)

WBF 加盟国がオープン及びウィメン、シニア、ミクスト各 1 チームを参加させる権利があり、4 年に 1 回開催されるチーム選手権試合です。

1960 年にトリノで第 1 回を開催し、以後 4 年に 1 回開催されています。日本は第 4 回マイアミ大会(1972 年)にオープンチームが、第 6 回ファルケンブルグ大会(1980 年)にウィメンチームが初参加しています。第 11 回マーストリヒト大会(2000 年)からシニア部門が加わり、日本は第 12 回イスタンブール大会(2004 年)に初参加しています。

2004 年の第 12 回大会にはオープン 72 ヶ国、ウィメン 42 ヶ国、シニア 29 ヶ国が参加しました。日本はオープンチームが予選 D グループ 18 チーム中 2 位と健闘し、初めて決勝ラウンドに進出し、ベスト 8 に勝ち残りました。

2008 年は北京で開催された第 1 回ワールドマインドスポーツゲームズーブリッジ、囲碁、チェス、ドラフツ(チェッカー)、シ

ヤンチー(中国将棋)の 5 種目の選手権試合と併せての開催となり、これを機に世界チームオリンピックはワールドブリッジゲームズと名称変更されました。この大会では日本シニアチームが初優勝しました。

2012 年も前回同様、第 2 回ワールドマインドスポーツゲームズの競技種目としてリール(フランス)で開催されました。

2016 年はワールドマインドスポーツゲームズではなく、ブリッジ単独で第 15 回ワールドブリッジゲームズとして開催され、ミクストチームが正式種目として加わりました。日本チームはオープンとミクストチームが予選通過し、ベスト 16 に残りましたが、惜しくも KO ラウンドで敗退しました。

2020 年は COVID-19 の影響で 2024 年に延期されました。

(2) ワールドブリッジシリーズ

前身は 1962 年にカンヌで開催されたペアオリンピックで、オープン、ウィメン、ミクストペアの選手権を競う大会でした。

当初はペア戦がメインイベントでしたが、元会長故ローゼンブルム氏を記念したローゼンブルム杯に人気が集まり、ペア選手権とチーム選手権が両立する大会になったため、この大会を「世界ブリッジ選手権試合」と呼んでいましたが、2010 年から「ワールドブリッジシリーズ」と名称を変更しました。国/地域に関わりない(トランスナショナル)ペア/チームで参加できる大会です。

(3) バミューダボウル／ベニスカップ／ドル

シーシニアトロフィー／ウーハンカップ

世界 8 ゾーン(日本はゾーン 6 に属します)の代表国と開催国代表の各種目 24 チームで予選を行い、以後準々決勝、準決勝、決勝と勝ち抜き戦形式で選手権試合を競います。

バミューダボウルはオープンチームの、ベニスカップはウィメンチームの、ドルシーシニアトロフィーはシニアチームの、ウーハンカップはミクストチームの優勝に対

し与えられています。

世界選手権としては最も歴史のある大会で、1950年に第1回大会がバミューダで開催され、当初は毎年開催されていましたがオリンピックの関係で隔年開催になりました。1974年にベニスカップ、2001年にドルシーシニアトロフィー、2019年にウーハンカップが追加されました。

1999年大会はバミューダボウル開催50周年を記念して、2000年1月にバミューダで開催されました。

1991年秋に横浜で開催され、日本も開催国として初参加しました。また、APBF(旧 FEBF/PABF)は1966年から APBF 選手権上位チームをゾーン6代表として派遣しています。日本は1995年(北京)にウィメンチーム、2001年(パリ)にオープン、ウィメンチーム、2003年(モンテカルロ)にシニアチーム、2005年(エストリル)以降、2007年(上海)、2009年(サンパウロ)、2011年(フェルトホーフエン)、2013年(パリ)、2015年(チェンナイ/インド)と連続してオープン、ウィメン、シニアチームがゾーン6代表として出場しました。2017年はシニアチームが出場しました。2019年はウィメン、シニアチームが出場しました。シニアチームは予選ラウンドで敗れましたが、ウィメンチームは6位で通過し決勝ラウンドへの進出を果たしました。決勝ラウンドでは予選1位の中国に敗れましたが、24年ぶりのベスト8の快挙となりました。2021年は COVID-19 の影響により 2022 年に延期、オープンとシニアは参加権がありましたが辞退しました。

(4) ユース選手権

世界ユースチーム選手権

世界ユースチーム選手権は若手の養成を目的に参加資格を26歳未満に限定し、1987年6月アムステルダムで第1回大会を開催した競技会です。以後隔年に開催されています。

2020年は COVID-19 の影響で 2023 年に延期されました。

世界ユースオープン選手権は、2009年に第1回大会がワールドユースコンGRESSとして、イスタンブールで開催され、(27ヶ国/地域 40 チーム参加)日本ペアとチェコペアの混成チームが優勝し、日本のユース選手で初めての世界チャンピオンが誕生しました。

(5) 世界同時大会

世界中が同じハンドを同時にプレイする、という発想から始められた大会で、上記のような選ばれた人だけの大会ではなく誰でも参加できます。1986年に第1回が開催され約6万人、1987年は約7万人、1988年、1989年は約8万人、1990年、1991年は約9万人参加し、1992年には遂に10万人を突破しました。

1999年は WBF の都合により中止されましたが、2000年に再開、インターネットを使ってスコア集計が行われています。

2020年は COVID-19 の影響により中止されました。

(6) アジアパシフィック (APBF) ・ブリッジ選手権

1957年の第1回マニラ大会以来、各国持ち回りで毎年*開催しています。

(*注：1988年からはワールドブリッジゲームズの年は APBF ブリッジコンGRESSを開催)

現在では奇数年に開催する選手権試合は、前記のバミューダボウル、ベニスカップ、ドルシーシニアトロフィー、ウーハンカップのゾーン代表決定戦になっています。同様のゾーン選手権は世界各ゾーンで開催されています。

(*注：上記コンGRESSが開催されない偶数年に、アジアカップが開催される場合があります。)

当初はオープンチーム選手権試合だけを開催していましたが、1959年からオープンペア選手権、1963年からレディスチーム選手権、1989年からユースチーム選手権、2003年からシニアチーム選手権が開催されています。また、世界選手権開催に

あわせ、2019 年からミクストチーム選手権が開催されています。2020 年は COVID-19 の影響により中止、2021 年は ZONE6 INTERNET SELECTION TRIALS としてインターネットにて開催されました。

これまで日本では 1958 年(東京)、1964 年(東京)、1979 年(東京)、1998 年(神戸)で開催されました。

日本チームの優勝歴は次の通りです。

- ・オープンチーム：第 28 回(1985, シドニー)、第 41 回(2002, バンコク)、第 49 回(2013, 香港)、第 50 回(2015, バンコク)
- ・ウィメンチーム：第 30 回(1987, 上海)、第 47 回(2010, ハミルトン)、第 49 回(2013, 香港)
- ・ユースチーム：第 43 回(2005, ソウル)
- ・シニアチーム：第 42 回(2003, マニラ)、第 43 回(2005, ソウル)

(7) APBF ブリッジコンGRESS

うるう年のワールドブリッジゲームズの年に開催される大会です。1 カ国から複数チームが参加できる親善色の強い大会です。2012 年には APBF 加盟国だけでなく、全 WBF 加盟国のプレイヤーが参加できるオープンな大会として福岡で開催されました。

2020 年は COVID-19 の影響により中止されました。

(8) アジアカップ

ワールドブリッジゲームズの年に開催される大会です。2010 年に第 1 回大会が(寧波)で開催されました。ゾーン 4,6,7 の各国が参加しています。

(9) アジア競技大会

日本コントラクトブリッジ連盟は、2017 年 11 月 15 日に日本オリンピック委員会の準加盟団体として承認され、2019 年 4 月 1 日より承認団体となりました。

アジア競技大会は、アジア・オリンピック評議会(OCA)が主催するアジア地域を対象にした“アジア版オリンピック”で、コントラクトブリッジは 2018 年のジャカルタ大会の正式種目に採用され、日本から

メン、ミックスの 2 チームが参加しました。2023 年の中国・杭州大会にはメン、ミックスに参加、メンが銅メダルを獲得しました。

(10) 国際公式試合の開催順序

ワールドブリッジゲームズはうるう年の偶数年、ワールドブリッジシリーズはうるう年以外の偶数年、バミューダボウル、ベニスカップ、ドルシーシニアトロフィー、ウーハンカップは奇数年に開催しています。

2025 年

第 55 回 APBF ブリッジ選手権
第 47 回バミューダボウル・第 25 回ベニスカップ・第 13 回ドルシーシニアトロフィー・第 4 回ウーハンカップ
第 19 回世界ユースチーム選手権

2026 年

第 5 回アジアカップ
第 17 回ワールドブリッジシリーズ
第 9 回世界ユースオープン選手権

2027 年

第 56 回 APBF ブリッジ選手権
第 48 回バミューダボウル・第 26 回ベニスカップ・第 14 回ドルシーシニアトロフィー・第 5 回ウーハンカップ
第 20 回世界ユースチーム選手権

2028 年

第 10 回 APBF ブリッジコンGRESS
第 17 回ワールドブリッジゲームズ
第 10 回世界ユースオープン選手権

以下同順序

(11) その他の国際試合

上記の公式試合の他に各国が開催するゾーン公認の国際試合やスポンサー付きの冠大会が世界各地で多数開催されています。

代表選抜規則

(目 的)

第 1 条 この規則は、公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟（以下「連盟」という）が、代表選抜委員会規則第 2 条に基づき、国際試合日本代表の選抜に関し必要な事項を定め、もって代表選抜手続きの適正な運営を図ることを目的とする。

(対象とする選抜試合)

第 2 条 この規則の対象となる選抜試合は、アジア選手権 (APBF 選手権、アジアカップ)、世界選手権（世界ブリッジ選手権、ワールドブリッジゲームズ）、アジア競技大会、およびその他理事会が定めた国際試合の日本代表選抜試合とする。

(選抜試合の実施時期)

第 3 条 代表選抜試合は、原則として当該国際試合の開始日の 6 ヶ月前までに実施する。

(選抜試合への参加資格)

第 4 条 代表選抜試合に参加する者は以下の要件を満たしていなければならない。

要件	アジア選手権、世界選手権、その他国際試合	アジア競技大会
会員資格	過去 3 年間懲戒処分を受けていない更新済みの会員又は会友	
日本国籍 保有者の場合	過去 1 年間他国の代表として WBF 又は各ゾーンの公式試合に参加していないこと	
日本国籍 非保有者の場合	過去 2 年間他国の代表として WBF 又は各ゾーンの公式試合に参加していないこと 選抜試合の開始日直前の 6 か月間継続して日本に居住していること	参加できない

- 2 前項の定めにかかわらず、代表にふさわしくない明らかな理由があると代表選抜委員会及び理事会が認めた者は、選抜試合に参加することができない。
- 3 第 1 項の要件を満たし、第 2 項に該当しないチームは理事会の承認を得て代表選抜試合に招待される。
- 4 選抜試合に参加を申し込んだ者が、第 2 項により招待されなかった場合及び病気その他のやむを得ない理由で選抜試合に参加できなくなった場合は、該当のチームは、メンバーを入れ替えて再度参加を申し込むことができる。

(選抜試合の形式)

第 5 条 代表選抜試合は以下の通り行う。

試合方式	オープン	ウィメン	ミックス	シニア
チーム人数	6 人			
日程	予選 2 日（3 チーム以上で予選を実施） 決勝 2 日（2 チームで行う）			2 日間

- 2 予選は 1 日 60 ボード前後のラウンドロビンを行い、上位 2 チームが決勝に進出する。決勝は 1 日 60 ボード前後の IMP 戦とする。
シニアは 1 日 60 ボード前後の IMP 戦（2 チーム）または総当たり VP 戦（3 チーム以上）を行う。
- 3 予選、決勝及びシニア代表選抜試合でそれぞれ全ボード数の 2 分の 1 以上をプレイしなかったプレイヤーのいるチームは失格となる。（プレイオフのボード数は含まない）

但し、代表選抜委員会が相当の理由があると認めた場合は、この限りでない。

- 4 その他、選抜試合の形式に関してこの規則に定めのない事項については、別に定める各選抜試合の試合要項を適用する。

また、この規則に定めのある事項に関して、試合要項にこの規則と異なる定めのある場合は、試合要項の定めが優先する。

(日本代表の決定)

第6条 選抜試合の勝者を当該国際試合の日本代表とする。

- 2 APBF 選手権シニア代表選抜試合の2位チームは、希望により日本第2代表として登録する事ができるが、出場の可否は APBF 選手権参加申込締切後の主催国の決定による。

(キャプテンの任命)

第7条 キャプテンは代表選抜委員会が指名し、理事会の承認を得て任命する。

- 2 キャプテンは原則として選手以外の者が務めることとするが、やむを得ない理由があると代表選抜委員会が認めた場合は、選手のうちの1人が兼ねることも可とする。

- 3 キャプテンの役割、権限などについては代表選手規則に定める。

(代表メンバーの補充)

第8条 代表決定後、やむを得ない理由で欠員が生じた場合は、キャプテン及びチームの希望を考慮して、代表選抜委員会が指名し、理事会の承認を得てメンバーを補充する。

(世界選手権の代表メンバー)

第9条 APBF 選手権において、世界選手権の代表権を獲得した場合は、同一メンバー（キャプテンを含む）を当該試合の代表とする。

但し、やむを得ない理由で欠員が生じた場合は、キャプテン及びチームの希望を考慮して、代表選抜委員会が指名し、理事会の承認を得てメンバーを補充する。

- 2 APBF 選手権にプレイングキャプテンで出場したチームが、世界選手権に NPC の派遣を希望する場合は、第1項但し書きに準じた取扱とする。

(選抜試合参加費用の助成)

第10条 代表選抜試合に参加するための交通費、宿泊費の助成を行う。具体的な助成の内容については、各選抜試合の募集要項に定める。

(改 廃)

第11条 この規則の変更は理事会の決議により行う。

附則

この規則は 2015 年 4 月 1 日以降に募集する代表選抜試合に適用する。

代表助成規則

(目 的)

第1条 この規則は、公益社団法人日本コントラクトブリッジ連盟（以下「連盟」という）が、代表選抜委員会規則第2条に基づき、国際試合日本代表に対する助成に関し必要な事項を定め、もって日本代表に対する適正な助成を行うことを目的とする。

(対象とする国際試合日本代表)

第2条 この規則による助成の対象は、以下の各号に定める試合の日本代表とする。

- (1) アジア選手権（APBF 選手権、アジアカップ）の日本代表
- (2) 世界選手権（世界ブリッジ選手権、ワールドブリッジゲームズ）の日本代表
- (3) アジア競技大会の日本代表
- (4) その他理事会が認めた国際試合の日本代表

(助成の対象となる期間)

第3条 助成を行う期間は、当該メンバーが日本代表に指名されてから、当該国際試合に参加して帰国するまでの期間とする。

(助成の内容)

第4条 この規則による助成は、以下の通りとする。

		グレードⅠ	グレードⅡ
代表 派遣	参加料	全額	
	選手の航空運賃	全額	半額
	選手の宿泊費相当額	全額（朝食付きツイン）	半額（朝食付きツイン）
	キャプテンの航空運賃	全額	
	キャプテンの宿泊費相当額	全額（朝食付きシングル）	
強化 練習	国内ナショナル競技会 （チーム戦）の参加費用	エントリー費の全額 （当該メンバーのみの参加が条件）	
	理事会が承認した 海外競技会への参加費用	エントリー費及び航空運賃の合計の 75%相当額 （当該メンバーのみの参加が条件） 主催者からの助成がある場合は助成額を調整する	
	国内練習会の費用	会場費及びボード組込費用相当額	

- (1) アジア選手権および世界選手権への助成は原則として、オープン、ウィメンはグレードⅠ、シニア、ミックスはグレードⅡとし、同一カテゴリーで複数チームを派遣する場合なども含め、年度ごとの事情を考慮して理事会で決定する。
- (2) アジア競技大会への助成は、JOC 支給対象外の交通費、宿泊費、および必要な経費を助成する。
- (3) その他理事会が認めた国際試合への助成は、その都度理事会で決定する。
- 2 前項に定める「航空運賃」は連盟が調査したエコノミークラス運賃とし、「朝食付き宿泊費」は大会組織委員会が斡旋するホテルのスタンダードルームを基準とする。朝食がつかない場合は、相当額を上乗せして支給する。
- 3 宿泊費の助成対象となる期間は、開会式の前日から当該チームが参加する公式試合の最終日までとする。
- 4 前各項に定める航空運賃及び宿泊費相当額は助成額の上限であり、実費がこれを下回

った場合は実費相当額を助成する。

- 5 選手個人が保有するマイレージによる航空券を使用した場合は、第2項のエコノミークラス運賃の50%相当額を支給する。
- 6 当該国際試合期間中の行動に対して、懲戒処分またはそれに準ずる処分を受けた場合は、助成金を減額または不支給とすることがある。
- 7 災害、伝染病の流行、テロ、戦争、暴動などの危機状況または連盟の資産の大幅な減少が生じた場合には、理事会は、前各項に規定する助成金額を変更することができる。
- 8 オンラインによる国際試合については、参加料の全額を助成する。さらに、試合会場から片道100キロ以上離れて居住する選手には、新幹線指定席を基準とした往復の交通費および1泊あたり上限8,000円の宿泊費を助成する。試合会場から片道100キロ未満離れて居住する選手には、会場までの移動時間が片道1時間半以上の場合は1泊あたり上限8,000円の宿泊費を、片道1時間以上1時間半未満の場合は1泊あたり上限4,000円の宿泊費を助成し、どちらも交通費の助成は行わない。
- 9 第4項の規定は前項に規定する交通費及び宿泊費に準用する。

(報奨金の支給)

第5条 以下の各号に相当する場合は報奨金を支給する。

- (1) アジア選手権で優勝した場合
 - (2) 世界選手権でオープン、ウィメンは決勝ラウンド8位以内、シニア、ミックスは決勝ラウンド4位以内に入った場合
 - (3) アジア競技大会でメダルを獲得した場合
 - (4) その他理事会が認めた国際試合で上記に準ずる成績を挙げたとき
- 2 金額については、その都度理事会で決定し募集要項に記載する。
 - 3 参加チーム数が5チーム以下の場合は、報奨金は、前項による金額の50%とする。

(改 廃)

第6条 この規則の変更は理事会の決議により行う。

附則

この規則は2015年4月1日以降に募集する代表選抜試合により決定された日本代表に適用する。